

部 会 報 告

ISO/TC 195 (建設用機械及び装置専門委員会) ポーランド・ワルシャワ国際会議報告

標準部会

1. はじめに

2010年5月11日～14日の4日間、ポーランド共和国のワルシャワで開催されたISO/TC 195 (建設用機械及び装置)、SC 1 (コンクリート機械及び装置分科委員会) 及び各WG (作業グループ) の国際会議に日本代表として出席したので、その内容を報告する。

ISO/TC 195 国際会議は例年5月に開催され、今年は幹事国ポーランドのIMBiGS (建設及び鉱山機械化協会) 主催により、ワルシャワ・フレデリックショパン空港近くにあるホテルGROMADA Airportの会議室で下記日程にて行われた。

- 5月11日 ISO/TC 195/SC 1 (コンクリート機械及び装置；日本が幹事及び議長国) 会議
- 5月12日 WG 1 (分類), WG 5 (道路機械) 各会議
- 5月13日 WG 7 (手押し式締めめ機械), WG 8 (破碎機；日本がコンビナー) 各会議
- 5月14日 ISO/TC 195 本会議

当協会は経済産業省の施策である「社会環境整備・産業競争力強化型規格開発事業 (コンクリート機械等分野 (内部振動機) に関する国際標準開発)」の一环として同省の委託を受け、積極的に参画している。日本からは表-1に示す4名の関係者が参加した。

表-1 日本からの出席者

氏名	役割
大村高慶	ISO/TC 195 /SC 1 議長
田丸正毅	ISO/TC 195 /WG 8 コンビナー (主査)
小野寺三男	ISO/TC 195/SC 1 エキスパート (専門家)
小倉公彦	協会 ISO/TC 195 事務局, ISO/TC 195 /SC 1 及び WG 8 国際幹事

各国からの会議出席者は、中国 (2), ドイツ (6), ポーランド (8) (幹事国), ルーマニア (2), スウェーデン (1), 英国 (1), 米国 (3), ISO 中央事務局 (1) 及び日本 (4) で計8ヶ国28名であった。

2. 会議概要

(1) 5月11日：ISO/TC 195/SC 1 (コンクリート機械及び装置) 会議

【出席者】：中国(2), ドイツ(2), ポーランド(3), ルーマニア(2), スウェーデン(1), 米国(1), 日本(4) / 大村高慶(議長), 小倉公彦(幹事), 小野寺三男(エキスパート), 田丸正毅 計7ヶ国15名

2008年以降2年間のSC 1の活動について、議長国日本から報告の後、推進中の2件 (ISO 18651-1 (内部振動機) 及びISO 13027 (コンクリートバッチングプラント)) の規格、新業務項目提案 (以下NWIP) 予定のコンクリートポンプ等の安全要求事項、及びNWIP投票を行った2件 (コンパクションダイアメーター及びコンクリートフローティングマシン) について、報告・討議・検討を行い、下記合意を得た。

① ISO/DIS 18651-1 (内部振動機-第1部：用語及び仕様)

DIS (ドラフト規格) 投票した全ての国が承認しており、FDIS (最終ドラフト規格) 投票を省略してIS発行する。

なお、後述するコンパクションダイアメーターの測定方法は、ポーランドが本規格を提案した当初は委員会ドラフトCD 18651の附属書であったが、ドイツ・米国の反対により本規格から分離し独立させることで2008年に合意した経緯がある。

② ISO/CD 13027 (コンクリートバッチングプラント-安全要求事項)

ポーランドの修正コメントにつき審議したが、フランス (欠席) が欧州規格EN 12151の改訂を提案中であり、その内容を反映すべきとして反対、ドイツ・米国も同様の理由で反対しておりDISへ進める事は合意されなかった。反対国は、EN 12151改訂内容に基づく提案をSC 1事務局 (日本) へ提出し、日本は第2次CD案を準備する。

本件は2008年7月にNWIP承認されてから2010

年7月で24ヶ月(DIS登録の期限)が経過しており、EN 12151改訂を待つ間にプロジェクトがキャンセルにならないよう、翌5月12日にISO中央事務局へ配慮を申し入れた。

③コンクリートポンプ等の安全要求事項

2008年の決議に従い、米国規格、中国規格、欧州EN規格及びカナダ規格との比較表を日本が作成し各国へ送付、各国エキスパートはコメントを日本へ提出する。結果を基にプロジェクトチームで規格化を検討、NWIP用ドラフトを準備する。

④NWIP コンパクションダイアメターの測定方法

2度目のNWIP投票も前回と同様、賛成4ヶ国(1ヶ国不足)で新規プロジェクトの要件を満足しない。オーストリア(欠席)、ドイツ・米国の反対もあり、IS規格化のNWIPは不成立となった。今後、ポーランドがテクニカルペーパー又はテクニカルレポートを準備する。

⑤NWIP コンクリートフローティングマシン—安全要求事項

2度目のNWIP投票は賛成8ヶ国だが、エキスパート3ヶ国(2ヶ国不足)で新規プロジェクトの要件を満足しない。提案国米国が、日本・ポーランド以外の国にもエキスパート参加を募り、定数に達すれば新規プロジェクトが成立する。

その他の事項

⑥中国からの提案:コンクリート配管の分類—形式・寸法、試験及び計算方法

コンクリート配管に関する形式・寸法の分類、試験及び計算方法を規格化し、メーカー毎に異なっている配管形状の統一、安全性向上を図るNWIPについて中国がプレを行った。

⑦次回SC 1国際会議は2011年5月TC 195本会議に合せ開催する。

(2) 5月13日:ISO/TC 195/WG 8(粗骨材処理用機械及び装置)会議

【出席者】:中国(2)、ドイツ(4)、ポーランド(4)、ルーマニア(2)、スウェーデン(1)、英国(1)、米国(3)、中央事務局(1)、日本(4)/田丸正毅(コンビナー)、小倉公彦(幹事)、大村高慶、小野寺三男 計8ヶ国22名

WG8コンビナー田丸氏が2008年以降2年間のWG8の活動について報告すると共にNWIP 21873-3の経緯、作業用ドラフトWD 21873-3について説明し、下記合意を得た。

①投票締切後に英国がエキスパート参加を表明、計

5ヶ国となったので、NWIP成立。幹事国ポーランドは投票結果の書式をアップデートし中央事務局へ送る。

②日本はWD 21873-3を各国のWG 8エキスパートへ送り、意見があれば回答するよう求める。

(3) 5月14日:ISO/TC 195本会議

【出席者】:中国(2)、ドイツ(6)、ポーランド(4)、ルーマニア(2)、スウェーデン(1)、英国(1)、米国(3)、中央事務局(1)、日本(4)/議長:Mr. Budny、幹事:Mr. Rozbiewski(ポーランド)/書記:米国、ドイツ、中国より各1名 計8ヶ国23名

TC 195幹事国ポーランドの議長Mr. Budny氏の挨拶の後、議題に沿った報告・討議・検討が行われ、前3日間の会議の結果が承認された。

最後に、今回の会議開催に当り会場設定等を行ったIMBiGS及びポーランドの支援メンバーの尽力に謝意を表し、またSC 1、WG 5、WG 7、WG 8の開催に当り、それぞれMr. T.Omura(日本)、Mr. G. Piller(ドイツ)、Mr. D.Moss(米国)、Mr. M.Tamaru(日本)の尽力に感謝し、閉会した。

次回は2011年5月9日～14日中国(北京)で、再来年は2012年5月15日～18日オランダ(デルフト)で、その次の2013年は米国(シカゴ)で開催予定とした。

(4) その他のWG会議

5月12日にWG 5及びWG 1の会議が、5月13日にはWG 8の会議に先立ちWG 7の会議が開催されたので、それぞれ下記に結果概要を記す。

①ISO/TC 195/WG 5(道路機械)会議

—ISO 15143 Worksite data exchange メンテナンス機関の参加



写真—1 ISO/TC 195本会議風景



写真-2 ISO/TC 195 本会議出席者

ISO/TC 127/SC 3/WG 5 が制定した下記規格のメンテナンス機関として参加する事について ISO 中央事務局 Kennedy 氏より口頭報告があった。

ISO 15143-1 Earth-moving machinery and mobile road construction machinery
-- Worksite data exchange -- Part 1 : System architecture

ISO 15143-2 Earth-moving machinery and mobile road construction machinery
-- Worksite data exchange -- Part 2: Data dictionary

- ISO/CD 15688 改訂

WG 5 コンビナーが下記規格の改訂 CD を準備する。

ISO15688 : 2003 Road construction and maintenance equipment -- Soil stabilizers
--Terminology and commercial specifications

- CEN/TC 151/ WG 5 Road construction machines – Safety に関する報告

WG 5 コンビナー Piller 氏 (ドイツ) が以下の提案を行い、WG 7 会議でも協議することとした。

ウィーン協定に基づき、EN 500 parts 1, 2, 3, 4 及び 6 をベースにした ISO 規格を制定する。整合規格として受け入れられる事を目的とし、ISO/TC 195/WG 5 及び WG 7 のエキスパートが共同参加、CEN/TC 151/WG 5 のエキスパートも活動に加わりプロジェクトを推進する為、ISO/TC 195 の下に新たな作業グループを設立する。ドイツが NWIP を行い、Hartdegen 氏 (ドイツ) がコンビナーとなり 2 人のプロジェクトリーダー：Wenzel 氏 (WG 7 コンビナー、米国) 及び Piller 氏 (WG 5 コンビナー、ドイツ) から報告を受ける。本決議により、2008 年の決議書 ISO/TC 195 Resolution 4/2008 を差し替える。

- NWIP: ISO/NP 25800-1 Sweepers 改訂

下記規格の改訂に当り再度 NWIP 投票を行うよう Moss 氏 (米国) より提案があった。

ISO 25800-1 Sweepers -- Part 1 : Terminology and commercial specifications

② ISO/TC 195/WG 1 (分類) 会議

- WG1 コンビナー Dudczak 氏 (ポーランド、欠席) 代理の Moss 氏 (米国) の議事進行により、2008 年以降 2 年間の WG 1 の活動についてプロジェクトリーダー Rozbiewski 氏 (ポーランド) から報告、活動完了に伴い WG 1 を解散する。

③ ISO/TC 195/WG 7 (手押し式締固め機械) 会議

- WG7 コンビナー Wenzel 氏 (米国、欠席) 代理の Moss 氏 (米国) から 2008 年以降 2 年間の WG 7 の活動について報告、以下について報告・討議・検討を行った。途中、バスで IMBiGS へ移動、敷地内の実験棟において「振動ランマの衝撃エネルギー測定方法」のデモンストレーションを見学した。

・ 2008 年シカゴ会議の議事録確認。

・ Method for measuring the vibratory rammer's energy at impact

IMBiGS が開発中の「振動ランマの衝撃エネルギー測定方法」における評価試験結果について Budney 氏 (ポーランド) がプレを行った。

・ Development of the method for measuring the vibratory rammer's energy at impact with hydraulic device use :

油圧デバイスを用いた「振動ランマの衝撃エネルギー測定方法」の開発に関して Rozbiewski 氏 (ポーランド) が詳細な報告を行った。

・ Verification of the method for measuring the vibratory rammer's energy at impact with acceleration sensor use :

加速度センサを用いた「振動ランマの衝撃エネルギー測定方法」に関し Rozbiewski 氏が報告準備中。

・ Development of the Standard ISO XXXXX Building construction machinery and equipment – Vibratory plates and rammers -Safety requirements

振動プレート及びランマ-安全要求に関する ISO 規格の開発

Samuelson 氏 (スウェーデン) の予備作業項目 PWI ドラフトを WG 7 エキスパートが検討し、前日の WG 5 会議での討議内容を確認した。WG 5 決議に対し、プロジェクトの進め方について WG 7 エキスパート全員の意向を調査するよう要望した。

3. その他

この国際会議は今回で19回目になる。2008年4月に米国シカゴで開催した後、リーマンショックに続く経済危機の影響で、2009年5月に中国北京で開催予定だった国際会議が欠席国多数により中止となっしまい、2年ぶりの開催となった。

2010年4月初めに、「カティンの森」事件の追悼式典出席の為にロシアに向かったポーランド大統領機がモレンスクで墜落、大統領を含む大勢の政府関係者が亡くなったばかりであり、また、4月半ばにはアイスランド火山の噴火による火山灰の影響で、欧州の空港が広域かつ長期にわたり閉鎖された。航空便が多数キャンセルされ、4月末に開催予定だった他のISO国際会議が中止になったとの情報もあり、いつポーランドも中止を言いだすか分からない状況であった。5月10日出発当日、ミュンヘン空港が前日の噴火で閉鎖された為、運悪く予定の便が欠航となってしまったが、幸いウィーン経由の便に振り替えてもらい、ほぼ予定通り無事ワルシャワに到着することができた。

いざ行ってみると、ワルシャワ市内で土木工事が盛んに行われているのを目にし、ショパン生誕200周年



写真-3 ワルシャワ市内の大規模土木工事現場

で訪れる観光客の賑わいもあり、経済危機の影響はあまり感じられなかった。

今回SC1会議でのコンクリート配管NWIPにも見られるように、中国の建設機械分野での成長が前回にも増して著しい。日本の産業競争力維持・発展において、ポーランド及び諸外国との協力関係を深め、ISO/TC 195 建設用機械及び装置の国際規格開発を進めていくことが、今後とも重要であるとの思いを強くした。

(標準部会 事務局記)

JCMA

平成22年度版 建設機械等損料表 発売中

■内 容

- ・国土交通省制定「建設機械等損料算定表」に基づいて編集
- ・損料積算例や損料表の構成等をわかりやすく解説
- ・機械経費・機械損料に関係する通達類を掲載
- ・各機械の燃料（電力）消費量を掲載
- ・主な機械の概要と特徴を写真・図入りで解説
- ・主な機械には「日本建設機械要覧（当協会発行）」の関連ページを掲載

■B5判 約720ページ

- 一般価格 7,700円（本体7,334円）
- 会員価格（官公庁・学校関係含） 6,600円（本体6,286円）
- 送料（単価） 600円（但し沖縄県を除く日本国内）
- 注1）複数冊発注の場合は送料単価を減額します。
- 注2）沖縄県の方は(社)沖縄建設弘済会（電話：098-879-2097）にお申し込み下さい。

社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8（機械振興会館）

Tel. 03 (3433) 1501 Fax. 03 (3432) 0289 <http://www.jcmanet.or.jp>